

機能障害学

[講義] 第2学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 澤田篤史 山根裕司 岩部達也

【概要】

本授業では、疾病や外傷、加齢などによって生じる身体機能障害について、解剖学・生理学・病理学的基盤を踏まえて理解することを目的とする。

ICF（国際生活機能分類）の枠組みを用い、単なる機能低下の理解にとどまらず、機能障害と活動制限・参加制約との関連を多面的に捉える視点を養う。

【学修目標】

一般目標

さまざまな原因によって生じる機能障害のメカニズムについて理解する。

行動目標

1. ICFにおける機能障害の位置づけ、活動・参加との関連について説明できる。
2. 疼痛の種類、重症度、発生メカニズムについて説明できる。
3. 関節可動域制限の原因やメカニズムについて説明できる。
4. 筋力低下・筋持久力低下の原因やメカニズムについて説明できる。
5. 下位運動ニューロン障害の代表的な徴候とメカニズムについて説明できる。
6. 上位運動ニューロン障害の代表的な徴候とメカニズムについて説明できる。
7. 協調性運動障害と錐体外路障害の代表的な徴候とメカニズムについて説明できる。
8. 呼吸機能障害や循環機能障害、代謝機能障害のメカニズムや運動への影響について説明できる
9. 加齢に伴う身体機能の変化や加齢による運動機能障害について説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	機能障害学概論	機能障害とはなにか、ICFにおける位置づけについて学ぶ。	吉田晋
2	疼痛	痛みのメカニズムについて学ぶ。	吉田晋
3	関節可動域制限	関節の構造や可動性の特徴を理解し、関節可動域の制限因子について学ぶ。	山根裕司
4	関節可動域制限	関節拘縮の原因とメカニズムについて学ぶ。	山根裕司
5	筋機能障害	筋の機能と収縮様式について学ぶ。	山根裕司
6	筋機能障害	筋力低下・筋持久力低下の原因とメカニズムについて学ぶ。	山根裕司
7	下位運動ニューロン障害	下位運動ニューロン障害の代表的な徴候とメカニズムについて学ぶ。	岩部達也
8	上位運動ニューロン障害	上位運動ニューロン障害の代表的な徴候とメカニズムについて学ぶ。	岩部達也
9	感覚障害	感覚障害の種類、メカニズムについて学ぶ。	吉田晋
10	協調性運動障害および錐体外路障害	協調性運動障害と錐体外路障害の代表的な徴候とメカニズムについて学ぶ。	岩部達也
11	呼吸障害	呼吸機能障害とそのメカニズム、および、運動への影響について学ぶ	澤田篤史
12	循環障害	循環機能障害とそのメカニズム、および、運動への影響について学ぶ	澤田篤史
13	代謝機能障害	代謝機能障害とそのメカニズム、および、運動への影響について学ぶ	澤田篤史
14	加齢に伴う障害	加齢による身体機能変化について学ぶ	澤田篤史
15	加齢に伴う障害	加齢による運動機能障害について学ぶ	澤田篤史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験） 100%

定期試験および追再試験実施後、個別での問合わせに対しフィードバックを行う。

【参考書】

対馬栄輝 編 「Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学」 メジカルビュー社 2020年

【学修の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する基礎医学的背景（解剖、生理、運動学など）について重要事項を整理し、ノートを作成するなど予習して授業に臨むこと。（80分）

授業後は配布資料、参考図書や引用文献をもとに知識をさらに深め、わからないところは質問するなど復習をしっかりとすること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を習得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

吉田晋（理学療法士） 澤田篤史（理学療法士） 山根裕司（理学療法士） 岩部達也（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における理学療法士としての実務経験に基づき、実践的な講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している